

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
H304	環境経済学Ⅱ	3年	講義	2	大石和博
授業概要 環境経済学Ⅱでは環境経済学Ⅰでの学習を踏まえて、環境アセスメントや費用便益分析など環境経済学Ⅰより発展的な内容について講義を行います。環境と経済が身近に感じられるように、新聞紙面に出てくる温暖化問題や廃棄物問題などを取り上げながら、環境経済学の基本的な考え方を解説します。この授業で学ぶ環境経済モデルは、都市に生起する環境問題を考えるための有効な分析用具であり、卒業研究等で必要になります。できるだけ環境経済学Ⅰの直後に履修してください。					
到達目標(学習の成果) ・環境経済学の基本的な用語(環境税、排出量取引など)を説明することができる。(DP3) ・経済モデルを用いて環境問題を分析することができる。(DP3)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	環境政策の基礎理論(1)	講義概要、需要曲線、供給曲線、余剰			
2	環境政策の基礎理論(2)	第3章 直接規制と市場メカニズム			
3	環境政策の基礎理論(3)	第3章 環境税			
4	環境政策の基礎理論(4)	第3章 最適な環境税			
5	環境政策の基礎理論(5)	第3章 環境税による経済厚生への改善			
6	環境政策の基礎理論(6)	第3章 税金の負担は生産者か消費者か			
7	環境政策の基礎理論(7)	第3章 環境税か補助金か			
8	環境政策の基礎理論(8)	第3章 直接交渉による解決			
9	環境政策の基礎理論(9)	第3章 排出量取引			
10	環境政策への応用	第4章 パリ協定			
11	環境の価値評価(1)	第5章 補論 環境アセスメントの背景			
12	環境の価値評価(2)	第5章 補論 環境アセスメントの手続き・課題			
13	環境の価値評価(3)	第5章 補論 規制影響分析			
14	環境の価値評価(4)	第5章 補論 対費用効果分析(費用対効果分析)			
15	環境の価値評価(5)	第5章 費用便益分析			

準備学修(授業外の自己学修)

最もよい準備学修は新聞を読むことです。特に、『日本経済新聞』をできるだけ毎日読むようにしてください。

成績評価の方法・基準(%表記)

原則として、提出物(40%程度)、期末試験(60%程度)で評価します。ただし、遅刻、欠席および受講態度不良は減点の対象となることがありますので注意してください。

観点	S	A	B	C
環境経済学の基本的な用語を理解し、教科書レベルの問題を正しく解答することができる。	環境経済学の基本的な用語を「十分に」理解し、教科書レベルの問題を9割以上正しく解答することができる。	環境経済学の基本的な用語を「ほぼ十分に」理解し、教科書レベルの問題を8割以上9割未満正しく解答できる。	環境経済学の基本的な用語を「かなりの程度」理解し、教科書レベルの問題を7割以上8割未満正しく解答できる。	環境経済学の基本的な用語を「ある程度」理解し、教科書レベルの問題を6割以上7割未満正しく解答できる。
経済モデルを用いて環境問題を分析することができ、教科書レベルの問題を正しく解答することができる。	数値例を用いて「正確に」分析でき、教科書レベルの問題を9割以上正しく解答することができる。	数値例を用いて「ほぼ正確に」分析でき、教科書レベルの問題を8割以上9割未満正しく解答できる。	数値例を用いて「かなりの程度」分析でき、教科書レベルの問題を7割以上8割未満正しく解答できる。	数値例を用いて「ある程度」分析でき、教科書レベルの問題を6割以上7割未満正しく解答できる。

教科書

下記の教科書を使用します。

栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ 第3版』有斐閣、2016年、税込み2,592円。

参考になる本:

- ① 諸富徹ほか『環境経済学講義』有斐閣、2008年。
- ② 環境経済・政策学会『環境経済・政策学の基礎知識』有斐閣、2006年。
- ③ 馬奈木俊介編『資源と環境の経済学 ケーススタディで学ぶ』昭和堂、2012年。
- ④ 有村俊秀ほか『環境規制の政策評価 環境経済学の定量的アプローチ』上智大学出版会・ぎょうせい、2011年。

履修上の注意・学修支援

この科目を履修する前に、環境経済学 I を履修してください。